第25回地域医療現地研究会に参加して

「地域包括医療・ケアを都市へ広げよう」

～町は大きなホスピタル～

＜鳥取県・日南町／江府町＞

国診協地域医療・学術委員会委員／熊本県・上天草市立上天草総合病院長
樋口定信

平成23年5月27日(金)・28日(土)の2日間にわたり、鳥取県日南町と江府町において、国診協の第25回地域医療現地研究会が開催された。今年は、3月11日の東日本大震災により、東北地方の多くの国保直診が大きな被害を受けられ復旧・復興に日夜がんばっておられるなかでの現地研究会の開催となり、東北地方からの参加はごく少数であったが、全国の国保直診、国保連合会から前年を大きく上回る324名のみなさんに参加いただいた。

日南町は、鳥取県の西南端に位置する面積341km^2、人口5,458人(平成22年国勢調査)、高齢化率44.9%の島根県・広島県・岡山県と県境を接する、まさに中国山地のど真ん中にある。また江府町は、鳥取県の西部、岡山県真庭市と隣接し、大山の南山麓に位置する面積124.7km^2、人口3,551人(平成22年3月31日現在)、高齢化率38.7%であり、両町とも山間地の典型的な過疎・超高齢社会の町である。

今回の研究会は、参加者の利便性を考えて例年の研究会より日程を約半日短縮、5月27日の午後から28日の午前中までとして、日南町の国保日南病院、健康福祉センターほほえみの里、介護福祉センターあかねの郷を中心に開催された。

研修1日目－5月27日(金)

当日早朝6時30分、東日本大震災発生の翌3月12日に全線開通した九州新幹線「さくら」で熊本を出発し、岡山で伯備線に乗り換え生山駅で下車、10時30分過ぎに開講式会場の日南町総合文化センターに到着した。11時から国診協の地域医療・学術委員会に出席、今回の現地研究会の日程の説明、来年第26回の現地研究会、本年11月の第51回全国国保地域医療学会についての協議を行った。また来年1月の地域包括医療・ケア研

写真1　開講式が行われた日南町総合文化センター

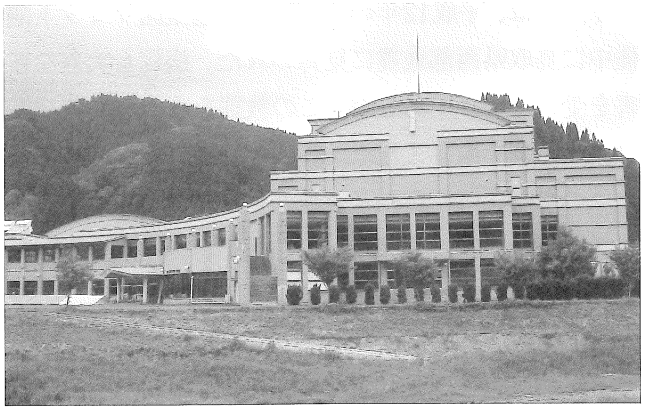


写真２　開講式

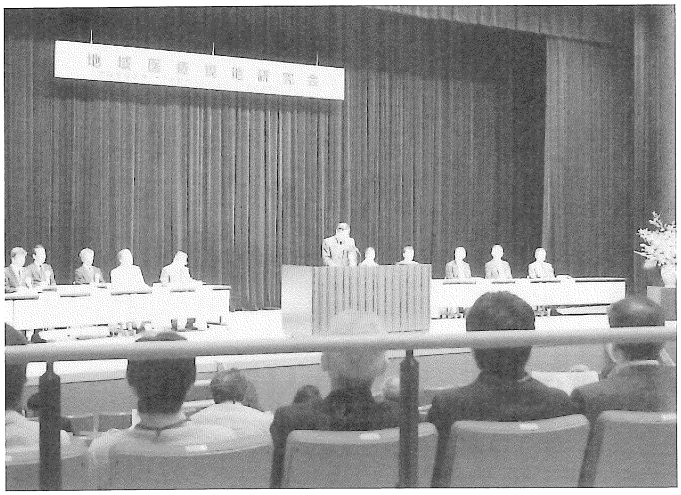


写真３　研修施設の概要説明
（写真左から平田、梅林、中曽、武地の各氏）

修会についても協議を行った。

［開講式］

午後１時30分から日南町総合文化センター「さつきホール」で開講式が行われた（写真１・２）。最初に、国診協の廣畑衛会長の代理として冨永芳徳常任顧問より、医師・看護師不足をはじめとした国保直診を取り巻く厳しい医療環境、50周年を迎えた国民皆保険を維持することの重要性、そして今回の現地研究会のテーマにもあるように国保直診が展開してきた地域包括医療・ケアが高齢社会を迎える都市部でも必ず必要になってくるとの開会の挨拶があった。次に、開催地を代表して日南町の増原聡町長より日南町、江府町の案内と国保直診は地域医療の“最後の砦であり、松明の灯りであるとの力強い歓迎の挨拶をいただいた。その後、来賓として伊藤善典・厚生労働省保健局国民健康保険課長（代理：山口道子・国民健康保険課在宅医療・健康管理技術推進専門官）、鳥取県の平井伸治知事（代理：藤井秀樹・福祉保健部医療調整官）、鳥取県医師会の岡本公男会長（代理：米川正夫理事）の三氏より挨拶をいただいた。

続いて、視察研修施設の概要について、江府町国保江尾診療所長の武地幹夫先生、国保日南病院の中曽森政事務部長、日南町健康福祉センター「ほほえみの里」の梅林千恵健康対策室長、日南福祉会介護福祉センター「あかねの郷」の平田隆邦施設長から説明が行われた（写真３）。

江府町は奥大山の自然（天然水、氷、米、大豆、ブルーベリー等）を活かした事業を展開している。また、竹内敏朗町長のもと江尾診療所を中心とした江府町総合健康福祉センターを建設して保健・医療・福祉・介護に力を入れている。

日南町国保日南病院は昭和37年、一般病床27床で開設され、その後いく度かの増床・増改築を行い、現在は99床（一般59床、療養40床）となっている。日南病院の特徴はなんと言っても、院是の「町は大きなホスピタル」にある。すなわち「各家庭は病院のベッド、道路は病院の廊下、自宅の電話はナースコール」をモットーに中山間地の広大な診療圏のすみずみまで、毎日の往診・訪問看護・訪問リハビリ等でカバーする理想的な在宅医療を実践している。

日南町健康福祉センターは、昭和54年に保健センターとして開設され、平成12年に現在の日南町健康福祉センター「ほほえみの里」となり、町の福祉保健課と地域包括支援センター、福祉事務所が同じフロアにあり、保健・医療・福祉・介護の連携の中心となって活動している。

日南福祉会介護福祉センター「あかねの郷」は日南町の指定管理を受け、公設民営施設として平成17年４月より運営開始した全室個室のユニットケア施設（10

写真４　左の建物が健康福祉センター、右が日南病院

写真５　健康福祉センターでの取り組みの紹介

写真６　健康福祉センターでの取り組みの紹介

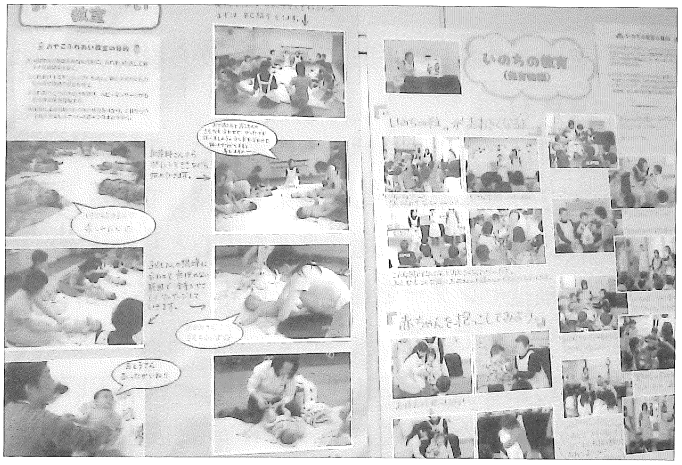
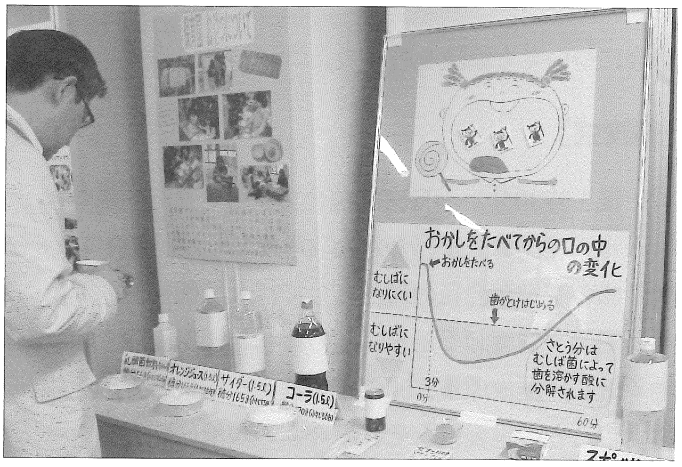


写真７　健康福祉センターでの取り組みの紹介

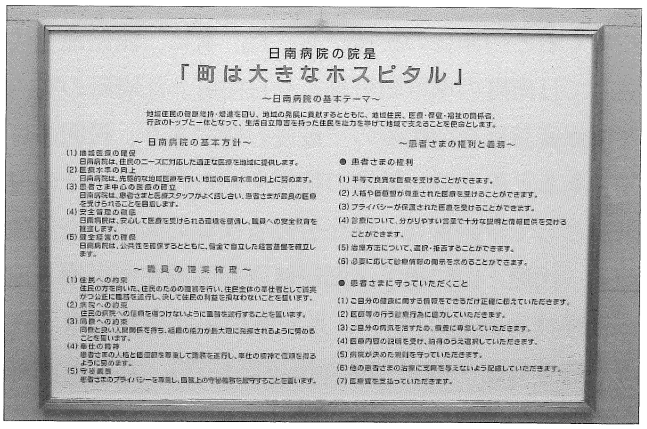


ユニット109床）である。基本構想として、「尊厳の重視」「家庭的空間」「環境配慮－町産木材利用による優しさの空間づくり」を掲げた、あくまでも利用者中心の介護施設である。

［施設視察研修］

施設見学はバス６台に分乗して行われた。私のグループはまず健康福祉センターほほえみの里（写真４）を見学した。施設内にはセンターが取り組んでいるさまざまな保健事業が手づくりのポスターで紹介してあり、すぐにでも自分の施設でやってみたい取り組みも多々あり非常に参考になった（写真５～７）。その他にも行政、日南福祉会、国保直診が一堂に集まって開催される月１回の地域ケア会議と毎週月曜日のケース検討会

写真８　日南病院玄関に掲示された院是



が活発に活動している状況がよく理解できた。

次に隣接の国保日南病院（写真４）を視察した。外来、一般病棟、療養病棟等を見学した（写真８～10）。また売店、レストランも見せてもらった。町三役と病院幹

写真9　日南病院の見学では参加者も熱心に質問

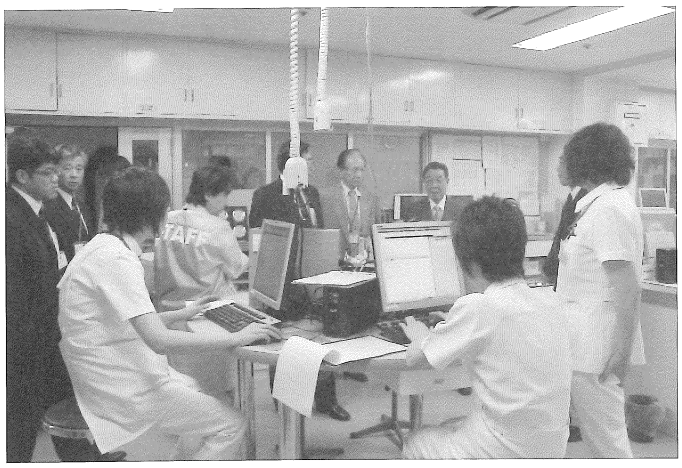


写真10　外来待合には畳敷きの休憩コーナーも

写真11　あかねの郷のエントランス

写真12　広大な面積を誇るあかねの郷の建築模型

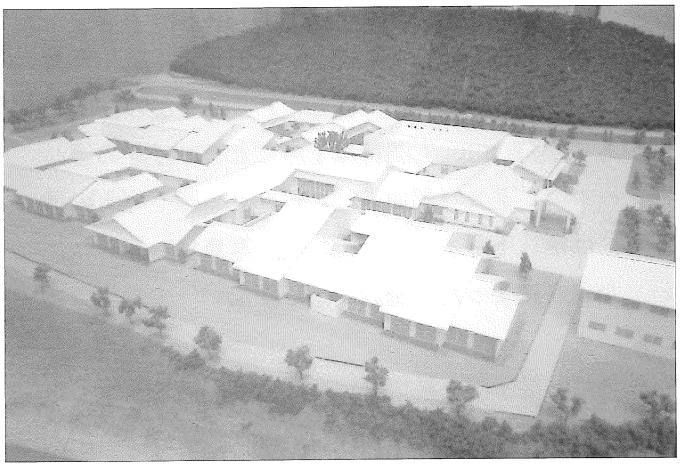


写真13　木のぬくもりがあふれ居室が並ぶ

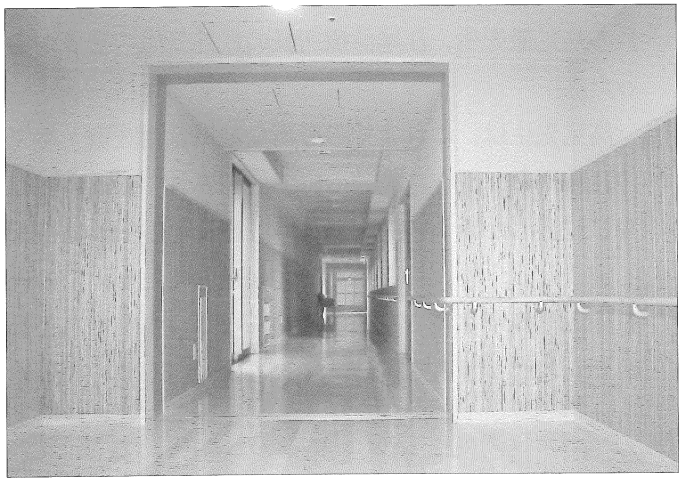


写真14　ホールの隅には古民具なども展示

部との定例意見交換会が月1回開催されていることはうらやましい限りであった。

次の介護福祉センターあかねの郷（写真11・12）は敷地面積23,955m²の広大な敷地に、10ユニット109床、全室個室の施設で（写真13）、利用者が自宅と同じような環境で心地よい生活が送れるように細かく気を配っ

写真15　居室入口（表札と郵便受けに注目）

写真16　明るい中庭

て造られているすばらしいセンターに感心した（写真14）。居室には1戸ごとに東上町1丁目などの住所表示があり（写真15）、玄関には1戸ごとデザインの違ったメールボックス（郵便受け）があり、廊下（町の通り）にはポストもあり、また中庭（写真16）もありといったようにまったく施設の感じがない一つの町であった。

施設見学終了後、地域医療交流会の開催地・米子市までのバス移動の車窓から江府町国保江尾診療所が入っている江府町総合健康福祉センターを見学した。

［地域医療交流会］

1日目の夜は、恒例の地域医療交流会が米子ワシントンホテルプラザで開催された。山口昇常任顧問の開会の挨拶のあと、竹内江府町長から歓迎の挨拶、坂本南部町長の音頭で乾杯し、交流会が始まった。研究会参加のほぼ全員の出席で、地元の料理に舌鼓をうち、酒を酌み交わしながら、地域医療についての熱い思いを語り合い、楽しい夜を過ごすことができた。

研修2日目－5月28日（土）

［全体討議］

2日目は米子ワシントンホテルプラザ「らんの間」で午前8時45分より、「地域包括医療・ケアを都市に広げよう」～町は大きなホスピタル～をテーマに全体討議が行われた（写真17・18）。

岩美町国保岩美病院長の渡邉賢司先生と国保智頭病院長の濵﨑尚文先生に座長を勤めてもらい、日南病院長の高見徹先生、江尾診療所長の武地先生の発表があった。

高見先生は、これまでの豊富な地域包括医療・ケアの経験から、現在、過疎の町で展開されている高齢社会に対応した新しい進んだ地域医療を「先進地域医療」と定義し、今後、都市の高齢化が進んだとき、この先進地域医療が都市でも必ず必要になる。すなわち、都市でも人口1万人規模のコミュニティづくりをする地

写真17　全体討議（左から、発表者の武地氏、高見氏、助言者の山口氏、押淵氏と座長の渡邉・濵﨑の両氏）

域医療が必要であるとの持論を展開された。

武地先生は「医療崩壊を食い止める取り組み～小さな町からの報告～」と題して発表された。そのなかで“地域医療”はただ地域で医療することではない。地域医療＝総合保健活動であり、医療崩壊を食い止めるには医師だけでなく看護師、保健師、助産師等の後継者の育成が最重要課題である。とくに医学部学生の育ってきた環境と過疎地域の実情とのギャップが大きいことが問題であり、そのためには医学部学生の地域医療現地実習を充実させることが喫緊の課題であると強調された。

その後、会場の参加者からも多くの質問や意見発表があり、最後に厚生労働省の山口専門官と国診協の押淵徹副会長から助言とまとめがあり、有意義な全体討議が終了した。

続いて閉講式があり、次期開催地の千葉県・君津中央病院企業団の福山悦男企業長の挨拶と国診協押淵副会長の閉会挨拶で２日間の日程を終了した。

写真18
質議応答では日南病院事業管理者の安東良博氏も発言

今回の現地研究会では、これからの地域包括医療・ケアのあるべき姿、とくに都市部でのコミュニティづくりと過疎地の地域医療を守るための後継者の育成の重要性を学んだ。参加者一同、それぞれの施設を取り巻く環境は違っても国保直診の進むべき大きな方向が見えてきたと思う。新たな決意と夢をもって明日からの活動に取り組みたいと思い散会した。